

ハダニ類の主要殺ダニ剤に対する感受性低下の実態

福島県果樹試験場病理昆虫部・平成9～10年度試験研究成績書

1 部門名 果樹—リンゴ・モモ・ナシ—病虫害防除 分類コード 04—01—23000000、04—02—23000000、04—03—23000000

2 要 旨

平成9～10年にかけて、各地域から採集したハダニ個体群の基幹殺ダニ剤であるピラニカ水和剤に対する感受性の実態を検討した。

(1) 平成9年に実用濃度で行ったナミハダニ地域個体群(22地点)に対するピラニカ水和剤の防除効果は、地域および樹種をとわず低下している実態が明らかになった。特に県北地方では、著しく低下している事例が認められた。福島県試個体群のLC50値は、48.4 ppmで平成7年検定時の16.7 ppmと比較して、徐々に感受性が低下している実態が明らかになった。

(2) 平成9年に実用濃度で行ったリンゴハダニ地域個体群(13地点)の防除効果試験では、磐梯町で感受性の低下が疑われた。そのため、平成10年8月に、会津坂下町3地点、磐梯町2地点のリンゴ園から採集したリンゴハダニを、さらに9月には磐梯町の2地点について検定を実施した。その結果、いずれの個体群も感受性の低下が示唆され、9月に行った磐梯町2地点のLC50値は、71.8および34.0 ppmであり、著しい感受性低下の実態が明らかになった。さらに、磐梯町の個体群は、マイトクリーンに対しても感受性の低下が認められ、ナミハダニと同様にリンゴハダニでもピラゾール系剤による交差抵抗性の可能性が示唆された。

(3) 以上の結果から、極端な感受性低下の認められた地域では、バロックフロアブル、コロマイト乳剤を防除体系に組み入れるとともに、ハダニ類天敵群の保護を含め殺ダニ剤の依存度を軽減する防除体系の確立が必要である。